

R18
ADULT ONLY
成人向け作品につき
18歳未満閲覧禁止

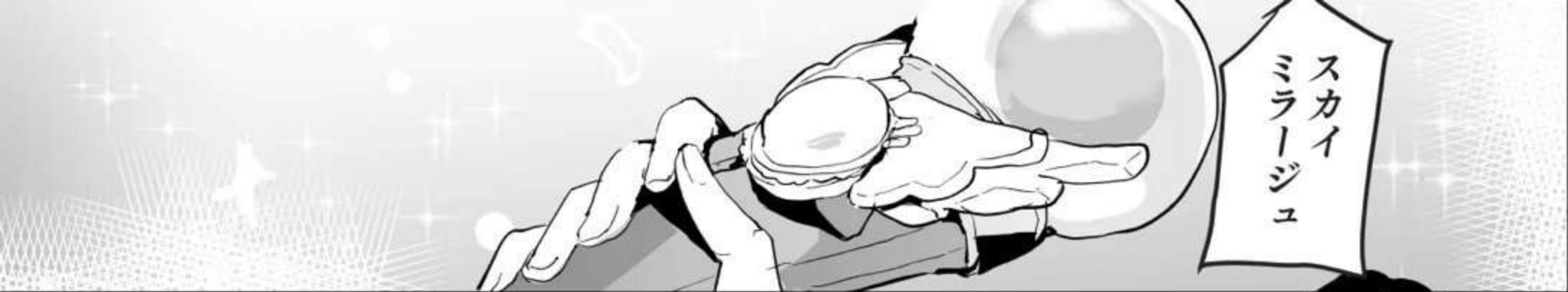
びっぴるどすてべ ふたまゆあ



世界を5に...
スチベ



悪墮ち
ふたなり
洗脳



スカイ
ミラーージュ



この男は
危険です
はやく

ましろさんも
早く変身を!!

じゃあ
あとは
頼むよ



僕を一目見ての
その判断……いいね
キュアスカイ

ましろさん



僕の
キュアプリズム

はい♡
ハメルマラ様♡

スレイブコネクト♡
メス豚チェンジ……

プリズム♡



キ...
キ...
キ...

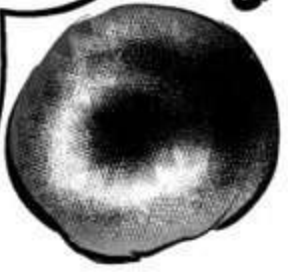
ふわり広がる
アケメの光♡

キュアプリズム



だまして
ごめんね♡
スカイ♪

3V6♡





おちんぽ様
おちんぽ様
おちんぽ様

ほっ♡イダッ♡
入っれくりゆう♡

おちんぽ様



おちんぽ様

おほ♡

やっぱり彼女相手には
何もできなかったね
キュアスカイ...

君の言った通りに
なったわけだ
プリズム

んふ♡所詮は
ソラひゃんです
から♡



私の全てが
ご主人様のものに
なつたあの日に♡

おぼ
ちんぽ

あの洗脳装置は
思いつく
あらゆるものを
詰め込んだ自信作
だったんだけどね

君がここまで屈せずに
いられるとは
思っていなかったよ

私はプリキュア
らから♡

ち♡ちんぽには
こんなデカくて
気持ちいいちんぽでも
ま♡まけない：：のお

ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ



そうだね
プリキユアは
本当にすごい
存在だ

こうやって
僕のちんぽに
またがって
いるとはいえね

これはあなたが
やらせへん♡♡♡
おお♡精子い♡

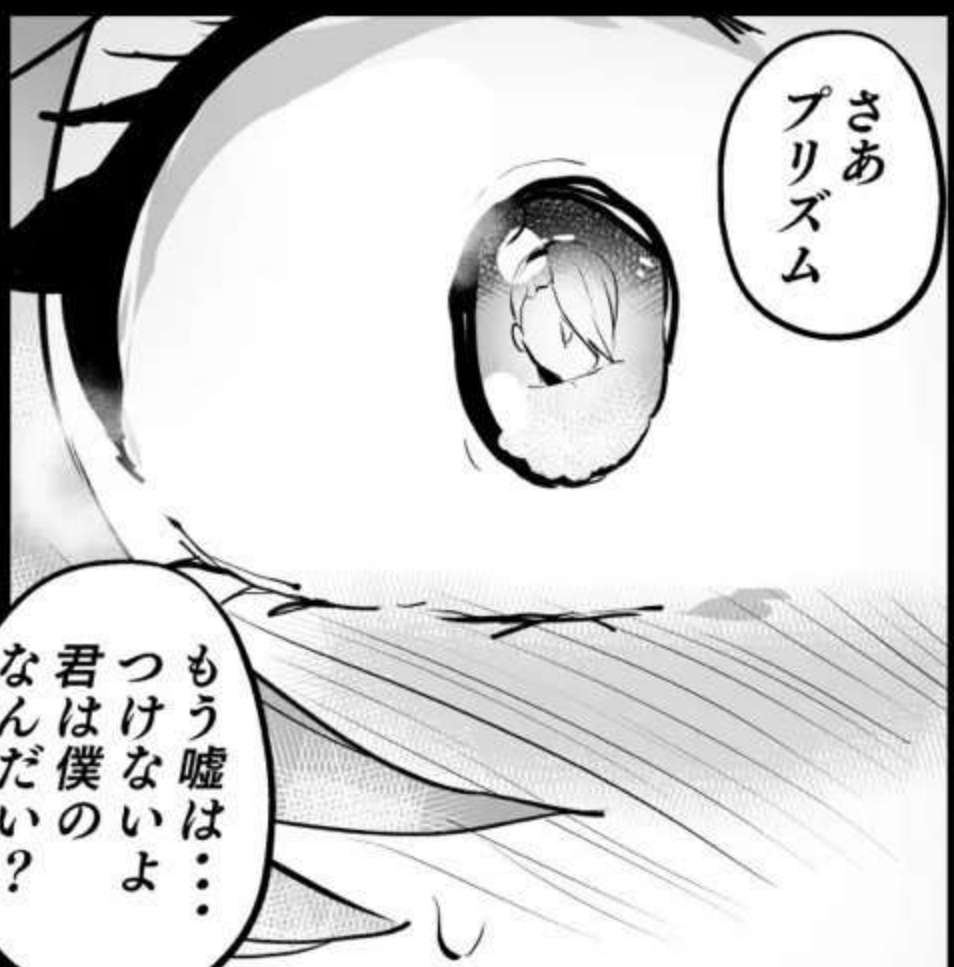


その仮面単体に
そんな力はない
それは全部
君自身の意思だよ

そ♡そんなにやわけ
やめれ触らないれ



自分を守るための
最後の嘘か…
キユアプリズム
残念だけど
それは違う



さあ
プリズム

もう嘘は…
つけないよ
君は僕の
なんだい？



なら試して
みよう





牝なんだよ
スカイ♡

ちゃんぽ穴♡
ご主人様のために
生まれてきた
エロ豚♡

それが
プリキュアで
ぶたキュア♡

ましろ…
さん

入力エラー
エラー…

だめ…
まけ…ない
みんなの
ヒーロー…

あは♡
すごいね
ソラちゃん♡
強い♪

スケベ豚の自分♡
ぶたキュアを
簡単には受け入れ
られないんだ

楽しく
なりそう♡

安心して
私が…

お前
の
お
乳
を
飲
み
たい





ふっ♡
んまっ♡



はあ♡ご主人様の
あつあつ精子
いっぱいだよ♡

うわっ、

はまっ♡



スカイにも
分けてあげるね♡

私達プリキュアの
大好きなもの
おちんぼ汁♡

ちんぼじりゅ
プリキュアの
だいひゅきな
もによ♡

うわっ♡

くちゅ



あん♡ご主人様に
最高のメス豚を
お届けして
みせます♡

じゃあプリズム
あとは君の
思うように
やってごらん



味覚改造などの
ほうは問題ない
ようですよ♡
そうか
いけそうだね

私が
壊してあげるね♡

ソラちゃんの中の
ヒルロー♡

ハメルマラ様の
居城の中に
私たちの家や
日常の一部を
再現：：♡

常識改変とか
表層的な催眠を
施して

こうれひょうか
まひろひゃん♡

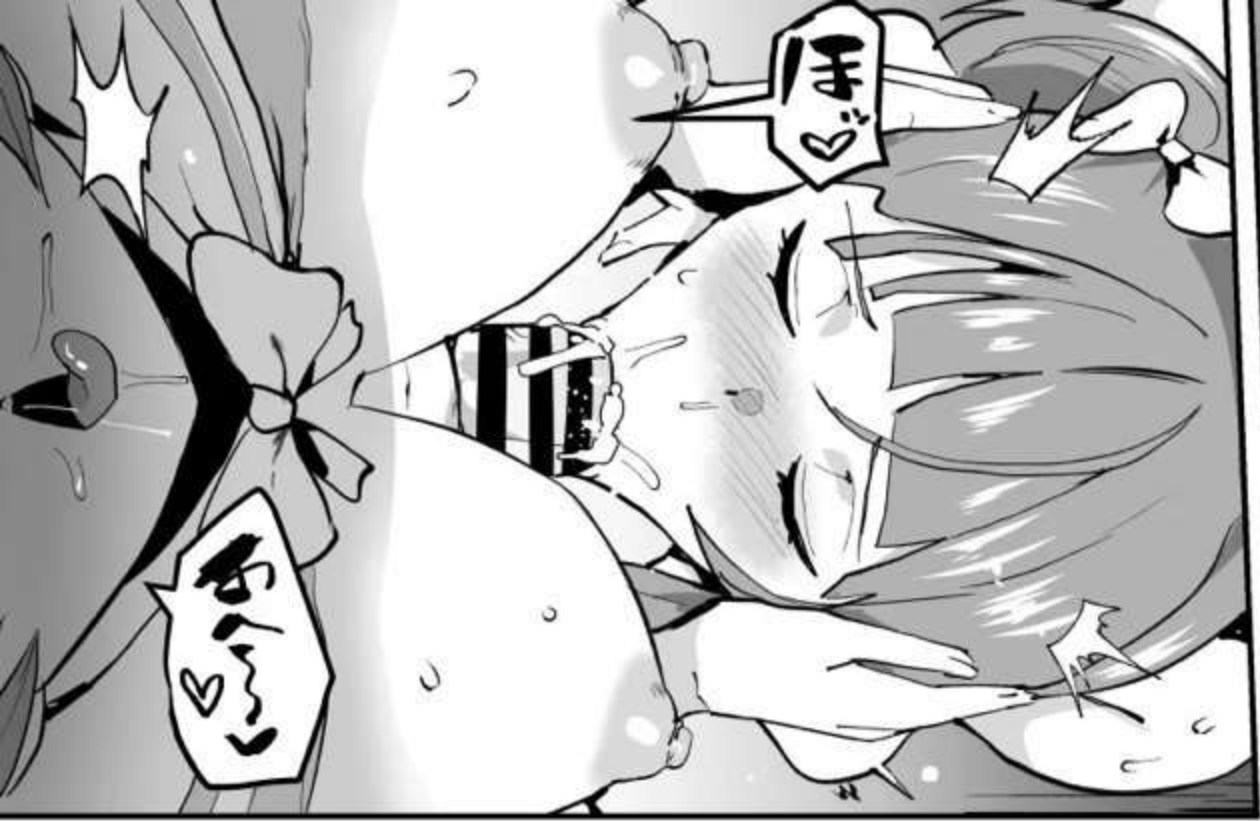
ブタキュアの力♡
キュアちゃんぽで
ソラちゃんの中の
日常をスケベに
染め上げる♡

おほ♡

きんぎょ
上手なよ♡

ソラちゃんの
おくちいい♡♡
おっ♡でぞ♡♡

おっ♡



かわいい
何その顔お♡
かわいしゅぎるよ♡
ソラちゃん♡
孕ましゅっ♡

らめ♡まひろ
ひちゃん♡
学校おお♡
おくれりゅっ♡



もう学校なんか
休むの♡休めっ♡

れもお♡

ソラちゃんは
私とずっと
スケベなセックス
しれればいいの♡
返事!

ふー♡しますっ♡
セックス♡
まひろひちゃんと
セックス♡

んも♡



うん
じゃあイケ♡
ソラちゃん♡

ソラちゃんの
ちんぽ汁アケメ
見せて♡

まひろちゃん♡
アッ♡





はあ♡
ソラちゃんの中
最高だよ♡

きもちいい♡
精子すっごい
でるっ♡

おあ♡



さあ♡
どんどんいくよ♡

ソラちゃんの中の
ヒーローが
ドスケベに墮ちれる
ように私頑張るね♪

ほ♡

ほ♡

装置による
深い精神部分への
洗脳アプリチ
そこにエラーがでる
原因：…

ご主人様の力を拒む
ソラちゃんの中の
ヒーロー♡正義の心を
快楽で染めて…♡



じゃあ
夜のお散歩
いこうか♥



気にせず
トレーニング
続けて♥

おっ♥まっられ♥
無理♥むりれす
むりい♥



マシンにも
馴染んできたね

気持ちいいでしょ
ハメルマラ様の
お力に染まって
いくの♪

あさちゃん
あさちゃん
あさちゃん
あさちゃん
あさちゃん



ましろひゃん
ランニングう
ランニングをお
おおおろ♥

ごめん
ソラちゃん
ちよっと
ださせれ♥

おほっ♥

きもひいい♥
洗脳フェラ
きもひくれす♥

ましろしゃん
セックス♥
ドスケベ交尾
しましよようよあ♥

堕とす♥

おまんこに
ちんぼ入れたくて
我慢できません♥

ふふ♥もう
ソラちゃんは
ちんぼ大好き
だね♪

でも学校は
いいのかな？
トレーニングは？

はい♥
そんなことより
セックスです

ここまでくれば
あとは最後の
仕上げかな♥

ほいほい

はちんぽ
まじゅん

ご主人様の前で
自分かんなのか
気づかせてあげる
ソラちゃん♥

セックス♥

ちんぽ
あ♥



あっ♡
きたきたあ♡



.....
なんで



必要ない
だろう？

避けないん
ですか？

ヤレ



なんで...
どうして？
私...

あなたが
許せないはず
なのに...
ましろさんを
助けないと...



私は
ヒーローに



催眠での常識を
いきなりとったから
戸惑っちゃってるん
だね

大丈夫だよ

ましろ…
せこ…ん

自分の中に
ある気持ち
を信じて♥
ソラちゃん

自分になるべき
ものがなんなのか♥

その気持ち
が教えてくれる
はずだから♥

ほし

……ましろさん
私今すごく
胸が苦しいです

こうやって
しっかり顔を
あわすのは
あの時以来だね

キュアスカイ
ソラ・ハレワタール

この人の全てが
暖かく感じて……♡
名前を呼ばれただけで
キュンキュンして……♡

ふふ♡ソラちゃん
それは恋かな♡

この人のためなら
なんでもできるって
思える素敵な気持ち♡

わたしもね
ご主人様の愛に
気づいて
同じ気持ちに
なったの♡

ましろさんも……
同じ♡

今……♡
分かりました♡

さあ

おいで
スカイ

本当に
私になるべき
ヒーローは……♡

ご主人様の
ドスケベちゃんぽ穴

ぶたキュアです♡

スレイヴコネクト♡
花ツタチエモンジ……

スカイ♡



ヒーロガール
おまんこの
出番です♪

無限にシコれる
ドスケベ空♡

キロマンク♡

DICK



気分はどうだい
スカイ？

最高れふ♡
ハメルマラ様♡
ご主人様あ♡

心がご主人様への
愛とおちんぼのことで
いっぱい
澄み切っています♡

しゅぎすぎ
ます♡♡

しゅぎ
ます♡



ちゅー♡



これからは
僕のためだけに
尽くすんだいいね

はひ♡
もひろんれす♡



これから私は
ご主人様だけの
ブタ奴隷ヒーロー！
キュアスカイれす♡

ちゅー♡

プリズムは私が
墮ちるまで
いっぱいして
もらってまひた

ずるいれす
んもお♡

おまんほ♡

それとこれとは
別だよ♡スカイ♡
次は私のおまんこ♡

♡おまんこ♡

私です♡

私♡

仲良くね
そろそろ次の
ターゲットだ

ほへっ♡はい
なんれも♡私
ご主人様のためなら
なんれもしますう♡

あん♡私たちに
おまかせ
ください♡

まんまと
おびき出されて
本当に
まぬけですね♥
笑えますw

こっちは
どうしますか？
ご主人様♪

僕のプリキュアに
オスの場所があると
思うかい？スカイ

はい♥では
処分しますね♪





お願い
お願いします
ウ：ウイングを

少年を殺さないで
ください

どうか
私はどうなっても
いいから……
なんでもしますから

僕はね
キュアバタフライ
仲間の絆や
愛が起こす奇跡……

数々の物語に
出てくるそれらが
本当にあるなら
見てみたいと
思っているんだ

こうしよう
バタフライ
君と僕とで
7日間だ

その間に
君が僕のものに
ならなければ
彼を助けるよ

まだあきらめて
いないんだろ？
奇跡がおこるか
楽しみだね……

少年

おまたせ〜♡

ごめんね♡
ダメだった♪

あきらめ〜♡

おま

おま

LOVE♡
主人様

おまおま
←トイ

おま
おま





あはっ♡
良かったじゃん
少年♡



あげはさんのこと
残念でしたね♡
ツバサ君

はっ♡
ザッ♡

でも
安心して
ください♪
意外とツバサ君で
遊ぶの楽しかったので
私たちのペットとして
飼えるように
お願いしてみます♡



うん♡ほらもっと
だして♡最高記録
更新してみよ♪
だっせっ♡

物ツタチハム♡
バランラフ♡

いっ♡
ごっ♡



のびて広がる
ワンダホー♡

♡♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡♡

MARA





朝のちん活♡





上手くいっただね♡
スカイ♪

ご主人様から
頂いたこの力で

はい♡
大成功です♡

プリキュアとして
世界をドスケベに
染め上げます♡



物を屈服させる
腰使い♡もう
しっかりオスね♡
すごっ♡

おねえちゃん
おねえちゃん！

ちほ♡

さすが私の弟れす♡
ほっ♡おねえちゃん
イツちやいそう♡

おっ♡イク
姉弟セックス
イクイクイク♡





でもシャララ隊長
ハメルマラ様の
理想郷の邪魔は
させまへんよお♡

私達の方に
抵抗するなんて
流石れす♡

チンポは幸福♡
逆らうやつは全員
プリキュアので
おっ♡♡



ヒーローはスケベをおっ♡
守るんです♡ケツ穴っ♡
シャララ隊長のケツ
やっぱあ♡

らめっ♡ソラ
へっお♡ケツっ
さからえないい♡

はへ♡
二人ろも
もどっおっ♡

シヤララ隊長
助けますね♡

今度は私が隊長を
助けてハメルマ様の
世界の忠実な
ブタにしてあげますう♡

ほっ♡私も
ベリイベリイさんを
救っちゃおう♡

ケツ中出しで
救ゆっ♡



あっ♡
出ました♡
キュア淫紋♡

それができれば
もう大丈夫
ですからね♡
二人とも♡

王妃!!
淫の護衛隊?

不穏分子ども
全員うごくな?

にげにげ



もうダメですよ♡
逃げては♡

シヤララ♡
いつも通り
デカチンと
可愛い男の子は
私のもとに♡

ふっ♡
なかなか♡

かしこまりました
しっかり選別します♡

フンツ♡出せ
シヨタちゃん汁
このシヤララの
まんこに♡フンツ♡
だしれみせろ♡

ハメルマラ様に
逆らうクズども
更生の機会に
感謝しなひゃい♡

ほっ♡♡♡
ちんぽ持りい
最高お♡王妃れ
良かったあ♡

へっ♡イクツ
シヨタレイプ
興奮しゆるう♡

ビッ♡

イッ♡

ドッ♡

ビッ♡

ビッ♡



デカチンの
みんなさ

エロエロ
ザーメン
あがってるさ

アア

今日の
あげは&早乙女姉妹
メス豚ファッション
乱交ショー

最高に
あげあげ
ドスケベで
いくよさ♡



はあ
みんなすごさ♡

おいしっ♡

アアア

FREE
SEX



レッツセックス♡
ハメてひるがるさ

わんだほー♡

アアア



どうてい♥
ラジド保育園

ごめんね
二人とも急に...

困ったときは
お互い様だよ〜♪

二人とも上手上手う
初めてのセックス♥
好きな時にピュッ
していいからね♥



任せて
ください♥

順番ですよ〜
あっ♥入れる前に
でちゃいましたか♥

こんなデカちゃんほ
使ってこなかった
なんてもったいないよあ♥

今日はいっぱい
ハメまくっれ
自信つけられね♥

大丈夫です♥
もう一度♥
頑張っつて
ここですよ♥





だんご

ちんぽ

まへろ

はあ♡
童貞ちんぽ
保育士最高♡



イグイクイク
イキますっ♡♡

もっと激しくて
いいかな♡

ハメルマラ様の
世界超最高う♡



違和感があるんだ...

やっぱりよく考えると練習もこのユニフォームだって.....

でもどうしてソラさんがここに？



たまきさん 不適合者の報告ありがとうございました♡

うんソラさん...かなめ先輩のことお願いします♡

はい♡学校の平和を守るヒーローの出番ですね♡

たまき？そ...ソラさん

おんたかほんたー♡

スカイ♡





ふっ♥野球部
おまんこ
締まります♥

今度はちんぽバットで
特別コーチですよ♥

ドク

ちんぽイケっ♥
イッて墮ちろ

皆がスケベに染まり
世界はご主人様の理想に
確実に近づいています

お

二度と
ご主人様の
世界に疑問を
抱くなっ♥



ひろがる洗脳♥
キュアザイメン
発射れす♥

ほ
しまるっ♥

ですが
「ハメマフルニクルン」
の広域洗脳は
完全じゃない人が
多いようです…

ん
で
ん
で
ん
で
ん

まだまだあ
キュア精子
出しますよあ

ん
ん

ん
ん

ん
ん
ん

プリキュアの
性欲なめるなっ♥

ましろさんは
足りないものが
あるからかも
と言っていました

ガホ

元になった技に
あつてこれに
ないもの：
つまりは彼女の力

先輩を
助けれ頂き
ありがとう
ございまひら

ですが
今はまだ...

ちんぽ
最高...

ソラさんの
ヒーロー精子い

はひら
かけれえ

かけますね

ふふ
ヒーローとして
当然のことを
したまでです

そして

ここに来るのは
苦労したけど

後は
あなたを倒して
全てを元通りに
するだけ

.....キュア
マジエステイカ

スカイ達にも
言ったけど
僕は不完全な
プリキュアに興味は
なくてね帰りなよ

.....
どういう意味?

赤子の状態からの
無理な変身……

パラ……

マジエステイとしての
本来の力を
引き出せていない
これは不完全だろ？

これを見ても？

……
驚いたね

完全に
成長した今の私は
プリキュアとして
100%の力を
出せる

私の方が
強いから
大丈夫

スカイ達を
みんなを
返してもらおうわ

庇護するものが
いなくなった
ことで

運命の子の力が
強制的に肉体の
成長を促した...?

興味深い
なんにせよ
喜ばしいよ

マジエステイとご主人様
にお仕えるのはずっと
先になると思ってました

嬉しいです

はあ
ほんとだよ

すぐに墮として
あげるからね
マジエステイ

うん

私達でいっぱい
ドスケベ
性教育して...

あげ

ごめんね
みんな

少しの間
大人しくしていて



スカイ達では
今の君の相手にも
ならないか...

なるほど

まあ当然
だろうね



.....何?

この余裕は...

終わりよ



正直に言えばね
僕はこの手は
使いたくないんだ

世界を染めるのは
その世界の
プリキュアで
あるべきだし

なにより
すぐ終わって
しまつて
つまらないからね

だから誇っていい
キュアマジェスティ

君は僕のものに
なるべき最高の
プリキュアだ...

何を言ッ

おいで

みんな



はい♡

ご主人様♡







今外してる子も
いれればもっと
いる...

全員僕のプリキュアさ
君たちの世界とは
別のだけどね



キュア
マジエステイ...

さあ寝けの
時間だよ



私のスレイトーン
ようやく出来たの♡

ねえ見て見て
ましる♡ソラ♡

はぁ
はぁ



これで私も
ご主人様だけの
プリキュアに
なれゆわ♡

うわっ♡

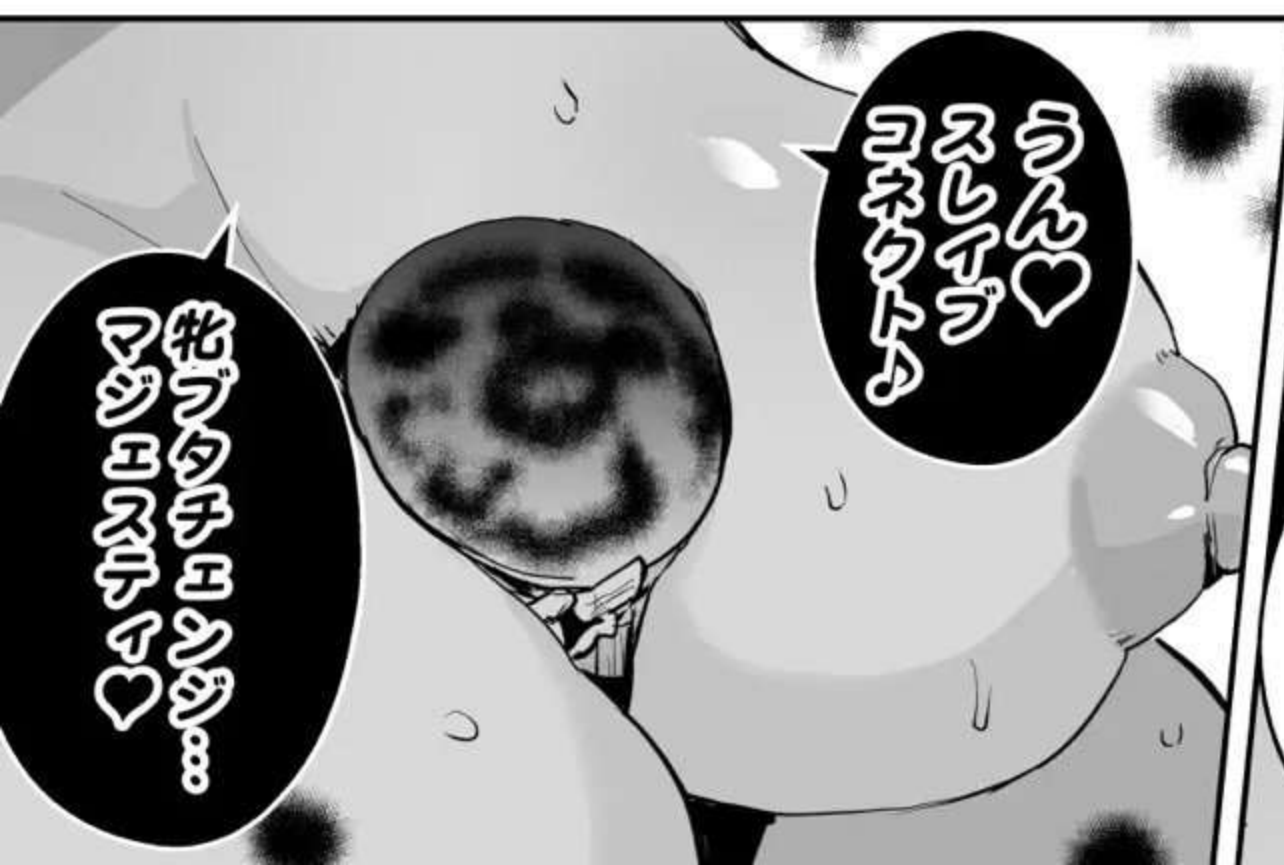


良かった♡
エルちゃん
ま

はい♡みんな
プリキュアが何か
教えたかいが
ありました♡
ソ

おほっ♡イクっ♡
プリキュアちゃんほ
ザーメンれおぼれりゅ♡

イクイク♡敗北
ロイヤルアクメ
しりゅ♡



うん♡
スレイブ
コネクトよ

花づなちゅん♡
マシホスチゅん♡



何々？あつ
エルちゃん
出来たんだ!!
おめでとう♪

エルちゃん
変身してみせて
ください♡



墮り立つ
気高い格好♡

中ロア
マツマツ♡





ブタキュアに
なってしゃぶる
ちんぽうまっ♡



ふふ♡私たちと
同じプリンセスの
ブタキュアだ♡

マヂエスティ
おいしそう♪



じゃあ♡同じ
みんなで
ご奉仕い♡

これでこの
プリンキュアは
全員僕のものに
なったわけだ

フフ♡トワっちも
早く堕として
あげなきゃね♪



「ブヒッ」

「け、結構です！わたしは・・・絶対に・・・いやぁ・・・！」

その日もソラシド市の空はいつもと同じように透き通った青空だった。人々の笑顔が溢れる平和な街に突然、甲高い豚声が響き渡る。

呼び止められたキュアプリズムは必死で女性の誘いを断る。かといってまとわりついてくる女性を無理に振りほどくことも出来ない。

「ブヒ・・・ブヒッ♪ブヒッ♪ブヒッ♪ブヒッ♪ブヒッ♪ブヒッ♪ブヒッ♪ブヒッ♪ブヒッ♪ブヒッ♪ブヒッ♪」

「プリズム！今、助けます！え？・・・うわぁぁっ・・・！」

どこからともなく立ち昇った黒いオーラを吸い込んだ人たちが自分の鼻を指で持ち上げて、鳴き始めたのだ。

プリズムをウィングが助けようと駆け寄った次の瞬間。彼に一際濃い真っ暗闇のオーラが纏わりついた。

恍惚の表情で豚鳴きを続ける人々の中を、キュアスカイ達は心配そうな面持ちで飛び抜ける。

「ウィングー！」

「こんな大勢の人を巻き込むなんて・・・許せません！」

「あがが・・・があ・・・ぐううっ・・・!!」

「それに女の子にあんな恥ずかしいことさせるとかも、ね！」

スカイとバタフライは怒りを隠せない様子だ。豚鳴きしている女性達は新しいアンダーグ帝国の刺客に操られて無様な姿を晒しているのだ。

ウィングの身体の中にオーラが収まっていく。心配したバタフライがウィングに辿り着く前に、キュアマジエスティが肉薄していた。そしてノーウェイトでウィングのお腹にパンチを繰り出した。

「あら？その綺麗な洋服を着た子、貴女も私と一緒にブヒッ♪ブヒッ♪鳴きましょっ？」

「やらせない、ゲススギル！」

そしたら、心から気持ちよくなれるわよ♪ブヒッ♪

「ゲヒっ・・・もう手遅れだ、プリンセス」

「っ!!」

腹の一撃にも動じないウィングは顔を歪ませて笑う。あまりに邪悪な表情に、打ったマジエスティですらたじろいでしまう程だ。

「ウィングー？ど、どついうこと・・・!?」

バタフライはショックを隠せない。純情で可愛いウィングが悪辣な顔をするのに、違和感しかなかった。

「かはっ・・・！ぐうっ・・・!!」

ウィングはマジエスティの首を鷲掴みにすると、またゲヒヒと嫌な笑みを浮かべる。

「苦しいかあ？悔しいかあ？そうだよな。お前らの王国が追放した男にしてやられたんだもんなあ。でもな。俺の力が乗っ取るだけだと思っなよ・・・」

「ゲススギル・・・!!」

シャララ隊長の言葉！忘れちゃったか!!」

スカイが殴りかかるが、マジエスティを盾にされて手を出せない。黒いオーラに弾かれて、近寄れないまま地面に叩きつけられる。

「スカイ！・・・何か知っているの！？」

「はい！この黒い光のようなものは、あの男の本体です。」

この光で人に取り憑き、盗みなどの悪さをしていました。

わたしも手ひどくやられたことがあります！

でもシャララ隊長が倒して・・・封印していたはず・・・」

「ゲヒヒっ！だなあ・・・」

だがこの俺の封印を俺に恨みがあるヤツにさせていたのはマズかったなあ。
お前みたいに・・・！」

「それは・・・どういう・・・あっ・・・」

黒いオーラを被せられたスカイは急に腕をダランと力なく垂れさせて、目が虚ろになる。

「スカイっ！」

プリズムが崩れ落ちそうになるスカイを抱きとめようとした。

だがスカイはその手を振り払う。

「だめ・・・です・・・離れてください・・・
うろう・・・！そんな・・・
が、我慢できないっ・・・!!」

苦しむように呻いたスカイは突然、
ニヘラと笑うと自分の鼻を指で押し上げる。

「ブヒッ♪ブヒ、ブヒッ♪」

こんな大事なことを忘れていたなんてえ・・・
ブヒッ♪

わたしは・・・主人様のお・・・忠実な下僕
ブヒっ♪」

「なっ・・・スカイまで!？」

いきなり豹変してしまったスカイに、
バタフライは驚きを隠せない。

「うぐっ・・・この力・・・まさか・・・」

「そう。俺が最後に盗んで隠し持っていたのは、“逆さまの天秤”さ。」

俺は嫌われやすい質でね。

こうして人の身体を乗っ取ったり、牝どもを家畜豚として飼ったりするのが趣味だからな。
ならそれを利用して貰おうと思ってね」

「だ、だめっ・・・!!」

くっ・・・うろ・・・あああ・・・
わたしまでえ・・・くひっ♪
ブヒ・・・ブヒッ♪」

ウィングが手を放したと同時に、今度はマジエスティまで豚鳴きを始めた。

さっきまで首を締められて苦しんでいたとは思えない恍惚の表情だ。

「マジエスティ・・・!」

「あ、そういえば・・・この肉体を俺は
気に入ったからな。」

もう二度と返さないぜえ。一生俺の物だ!」

「そんなこと!許される訳っ・・・!!」

バタフライがキッと睨みつけ、一蹴りで
ウィングに迫る。

ウィングは動じることなく、バタフライの額を
デコピンで抑えた。

黒いオーラがバタフライの頭を突き抜ける。

「いたっ!・・・あっ!あうう・・・
そんな・・・だ、だめっ・・・!!」

ああ・・・ブヒッ!な、鳴いちゃうっ!わたし
まで・・・おかしく・・・!」

ブヒッ♪!ブヒヒィィィ・・・♪」

「そ、そんな・・・バタフライ・・・」

あっという間に3人が豚鳴きし続ける変態にな
ってしまった。

ウィングを乗っ取った怪物の力は凄まじい。

プリズムは絶望に苛まれながらも、ファイティ
ングポーズは崩さない。

(わたしが・・・みんなを助けないと!)

「健気だね〜！一見気弱そうなのに。」

気に入った！君には特別に教えてあげるよ。

俺の力は“心を反転”させるんだ。

俺のことがとびきり大嫌いなヤツほど、俺に心酔する奴隷になる。

ゲヒヒッ！コイツらは皆、俺を憎んでいたから……こうなった……！」

「……？」

油断しているのか、自分の能力を明かすゲススギル。プリズムは少しだけそれに希望を見出していた。

憎しみという感情は、あまり自分には湧いてこない。

ただウィング達を思う……気持ち……

これは“悲しさ”だ。

無様に豚鳴きしているスカイ達を憐れむ涙を反転されたところでそれは激しい怒りになるだけ。

(この気持ちの私なら……)

戦えるってこと……)

「ブヒヒッ！プリズムは……ご主人様を倒したいと思っていますね。」

無駄な抵抗ブヒッ！全てはご主人様の掌の上……

諦めてわたしたちとブヒブヒ鳴いて、家畜になりましょう♪」

「そうですねブヒッ！ご覧になって。」

私達の美しい……牝豚姿……

ブヒヒッ♪」

「うふふっ……ましろん♪

ましろんも豚になるのお……似合っと思う♪

牝豚になるために生まれてきたみたい……

可愛い子ブヒッ♪

あげあげえ、ワンダホ〜ブヒッ♪」

3人はそれぞれに豚鳴きしながら、プリズムに迫る。

まるでウィングとプリズムの前に立ちただかるように。

(みんなにこんなこと言わせて……！豚になりたいなんて思う訳……！)

「あ……」

賢いプリズムは恐怖した。

3人はブヒヒッ！と鳴きながら笑う。

ウィングも「残念。そう思っちゃうよね、やっぱり。ゲヒヒッ！」とプリズムにトドメを告げる。

「いや……いやあっ……！なりたくない……豚になんて！」

あっ!!ああ……そんな……」

「ブヒンッ！プリズム……♪

鳴きやすいように手伝ってあげますね♪」

スカイ、マジエスティ、バタフライの3人が頭の上から左手の人差し指を鼻に向けて出してくる。

右手は自分の鼻を歪ませながら、ウィングと同じ邪悪な笑顔で。

3人から立ち昇った黒いオーラがプリズムの輝きを埋め尽くしていく。

「お……お鼻が豚さんになっちゃっうっ！

ふ……ふ……おっ……！ブフウッ……！ブヒッ……ブヒブヒッ♪」

「ゲヒヒッ！これでプリキュア全滅だね！」

呆気ない連中。でも……俺の役には立ってくれそうな可愛子ちゃんばかりだ。

俺の性処理にな！ゲヒヤヒヤヒヤっ……！

長い間、封印されていた鬱憤……晴らさせてもらっぜえ！」

ウィングはスパッツを脱ぎ捨てると、イチモツをギンギンに反り返らせる。

シヨタチンポとか思えない禍々しいサイズだ。

それを「ブヒブヒッ！」と鳴き続けるプリズムの鼻先にツンツンと突きつける。

一分前のプリズムなら思わず顔を背けたことだろう。

だが“心が反転”したプリズムは、クンクンと鼻を鳴らしてまた豚声を張り上げた。

「プヒィ〜♪フウ〜フウ〜♪」

「ご主人様のお・・・オチンポ様の匂い♪
しゅきい〜♪だいしゅきプヒッ♪」

プリズムがタラタラとヨダしを垂らしながら、舌をチロチロと延ばす。

フェラなんてした事もない生娘が、チンポを舐めたくて仕方ないといった顔をしている。

「ふうんっ♪す〜いい・・・プヒッ♪」

雄々しくて元気でえ♪それでいて美味しそうお♪

プヒィンッ♪

「わかります！こんなのを見せつけられたら・・・プヒッ！

子宮がキュンキュンして我慢出来なくなりまっ♪

プヒィー♪プヒッ♪

「プヒィン♪ご主人様、どうか！お願いです・・・♪

私達4人に・・・ご主人様のオチンポ様を舐め舐めさせてください♪」

発情した牝豚と化した4人にウィングは、「いいだろう。存分にしゃぶりついて俺に尽くせ」

とご主人様風を吹かす。

「「「「プヒィ〜！」「」」」」

4人はお互いの肩をぶつからせて、ひしめき合いながらチンポに群がった。

シロシロオ・・・シロオ・・・チュ♪

ジュポジュポ・・・ジュジュポオッ♪

「プヒッ♪これがご主人様のオチンポ様の味なのですっ♪

しゅ〜いプヒィっ！脳みそが蕩けそうなほど美味しいプヒッ♪」

「わかる〜♪シロシロお〜♪

舌先が幸せで、ずっとずっと舐めていたくなるわ♪

気分アゲアゲよ〜プッヒッ♪

スカイとバタフライが頷きあう。

「そうね♪あむう・・・んっ・・・プヒッ♪
思わずしゃぶりながら豚鳴きしちゃう素敵オチンポ様だものお♪

ああんっ♪流星ですプヒッ！ご主人様！」

「マジエスティったら、上目遣いフェラまで完璧なんてえ・・・プヒッ♪

さすがお姫様♪わたしも見習わなきゃ♪

シロシロお〜♪ご主人様の為なら何だって出来ますっ♪」

マジエスティの媚び牝具合を真似するようにプリズムが見上げてくる。

“心を反転”させられて、もはや狂信者になってしまった4人にとって豚鳴きもフェラも最高の喜びなのだ。

「ゲヒッヒッ！たまらねえ〜！！

くうっ〜！！いいぜ！そろそろ一発目を出してやる！！

ザーメンシャワーだ！！受け取れっ〜！！

「「「「プヒッ、プヒィッ♪」「」」」」

豚鳴きで声を合わせる4人を満足げに見たウィングは身体を仰け反らせて、大きくうめき声をあげた。

「おおおっ〜！！これは・・・いいぞー！

イクっ・・・！！」

ドピュルウ・・・ードドドプッ・・・ドピュウウ・・・！！

4人は一滴も逃すまいとでもいうように、手を顎の下に揃えると目をつぶり顔射を受け止めた。すさまじい量の精液が4人の顔を染め上げていく。添えた掌にもピチャピチャと精液が溜まっていった。

「「「「プヒィッ！ありがとうございますっ♪ご主人様♪」「」」」」



穢されても酷い目にあっても、嬉々として従う4人にウィンググ……いやゲススギルは満足げに高笑いした。

「ゲヒヒヒッ……いいぞーお前達。

正義の味方のプリキュアがそんな無様な顔晒して……ヒヤヒヤヒヤ……」

「そうだ！思いついたぞ……
今のお前たちに相應しい……遊びをな」

ゲススギルに下品な笑いに誰も動じない。

それどころか4人は、その企みに胸を期待にふくらませるのだった。

—————

「あれは……なんだ！」

スカイランド青の護衛隊隊長、シャララは空に浮かぶ暗雲に顔をしかめていた。

隊員のベリィベリーも「あんな禍々しいもの見たことがありません！」と焦っている。

すると暗雲の中に一際目立つピンク色の豚耳やタイツ、卑猥な部分が丸出しになったビキニを着た少女が楽しそうに顔を出した。

「ブヒブヒっ！シャララ隊長お♪

スカイランド王国を救うヒーローガール♪

ソラ・メスブタルが帰ってきましたブヒッ♪」

「なっ……」

自分を慕う少女の変わり果てた姿に、シャララは驚愕した。

鼻を押し上げて下品に笑う女が、ソラと同じ人間とは到底思えない。

純情で真面目、快活な元気っ娘だった彼女に何があったのか……？

「きゃあっ……！」

シャララが躊躇している隙をつくように、暗雲から放たれたビームがベリィベリーを貫いた。

「いたあっ！……ああ？……あひゃんっ

♪
ブヒィ……ブヒブヒっ……♪」

急に倒れたベリィベリーが豚鳴きしはじめた。

ビームはスカイランドの全域に無数に降り注いでいく。

「この光に当たると……

くっ！早く止めないとっ！！」

「ああんっ♪素敵だわあ〜ブヒッ♪

止めるなんて駄目よお♪命令ブヒィ！貴方も光に貫かれて牝豚になりなさい！ブヒヒッ……♪」

「お、王妃様まで……！」

シャララの背後から王妃が豚鳴きしながら飛びついてきた。

思わず振りほどいてしまったが、恐ろしい。

ビームに一度でも当たると豚のようになってしま……

なら無数に降り注ぐビームの先には王妃様のよ……うな犠牲者が沢山いるのだ。

「君の好きにはさせないっ！！……！」

シャララは剣を抜き、飛び上がった。

放たれるビームを避けながら、ソラに迫る。

「はあああああっ！！……なにっ！！」

繰り出す懇親の一撃を嘲笑うかのように、暗雲の中から無数の顔が這い出た。

異世界の少女達がニヘラと笑いながら、口を黒いオーラで光らせている。

暗雲の中にあつたビーム口は全て墮落させられた牝豚娘達だったのだ。

「うわっ……!!」

驚く間もなく、シャララは背後から撃ち落とされた。

突然の衝撃に呆気にとられながら落ちていく。

振り返った彼女の視界には、口からビームを放

つ王妃やベリイベリーの姿があった。

ドサツ・・・

地面に叩きつけられたシャララの元にソラが舞い降りてくる。

「さあ、シャララ豚♪

わたしと一緒に・・・ブヒッ♪

スカイランドの人たちを解放しましょう。

馬鹿な人間から・・・ご主人様の家畜豚へと・・・ブヒッ♪

差し伸べる手をとり起き上がったシャララは犬のチンチンのような姿勢をとった。

「ブヒィィィ♪ありがたいお言葉、感謝感激ブヒッ!!

ブヒッ♪♪牝豚になる幸福こそが青の護衛隊の守るべきもの!

我らをお使い漬しくださいませっ♪

ご主人様あ!ブヒッ♪・・・ブヒィィィ!!

一撃で即墮ちした憐れな牝豚を、ソラは指でそのダラダラとヨダシを垂らす舌を撫でてやる。

シャララは従順に、そして恍惚としてその指をシロシロと舐めて恭順するのだった・・・

「逃げろっ!!く、くるぞっ!!

ソラシド市を初心者マークをつけた黄色いハマーが爆走していた。

両方の窓から黒いビームをぶっ放し、道々の人々を次々に狙い撃ちにする。

「ブヒッ♪やるわね、マジエスティちゃん♪百発百中じゃない♪」

「ブヒィィィ!楽しいです♪

目についた全員、わたしの獲物♪

一人も逃さないブヒッ♪」

キキキィ・・・!

いきなり急ブレーキで止まったことで、得意げだったマジエスティは後部座席でバウンドしていた。

プリキュアの姿を解除しても子供に戻らなかったのは、牝豚になったからだと言われているが痛みは同じだ。

頭を抱えながら、怒っていた。

「もろブヒッ!ひどいわ!あげは...!

止まるなら止まるって・・・ブヒッ♪そーいうことね♪」

「ブヒッ♪!今日の予定、忘れてたわ♪

お姉ちゃんたちのファッションショーがあるんだった。

これは牝豚として・・・ブヒッ♪是非参加しないとね・・・」

「ブヒッ♪ブヒィィィ!!

ファッションショーの会場内はまだ外の喧騒が伝わっていないようだ。いつもどおりモデル達がキャットウォークを往来するのを、観客たちが音楽と共に鑑賞していた。

そこに乱入したあげはとマジエスティは我が物顔で、舞台を歩き始めた。

警備員は止める前に倒されてしまっている。

「ブヒッ♪皆さん、注目♪

ご主人様へのチン媚びダンス♪披露するから是非参考にしてね♪

ブヒッ♪・・・ブヒッ♪!」

「ブヒィィィ♪よく見てなさい♪

あなた達も・・・わたし達と揃って、ご主人様にお尻を振ることになるブヒッ♪」

「ブヒッ♪ブヒッ♪!

ブヒッ♪ブヒィィィ♪」

恥ずかしげもなくお立ち台で牝尻を振り始めた二人に、場内は悲鳴で埋め尽くされた。

「あ、あげは!!な、なんで・・・」

「やめなさい!あげはも・・・お友達も!」

あげはの姉、まりあとかぐやが思わず走り寄っ

てきた。二人とも衣装が乱れるのも気にしていないほど慌てている。

心配してくれる二人の大切なお姉ちゃん。

あげははニタアと笑うと舞台を黒いオーラで覆った。

ざわつく場内。

やがてオーラが晴れ、そこには早乙女姉妹だけが残されていた。ホッとする観客達。

だがそれも束の間だった。

まるで先程までのあげは達の真似でもするかのように、今度は二人がチン媚びダンスを始めたのだ。

「ブヒヒッ〜♪チン媚びっ！チン媚びダンスは腰つきが命よお♪」

「ブヒヒン♪こうしてえ・・・艶っぽく誘うようにい〜♪」

「ブヒブヒっ！見てえ〜♪見てっ！」

私をもっと見てえ〜ブヒヒッ・・・!!」

阿鼻叫喚のファッションショーを横目にあげは達は車へと戻る。

目的地はここじゃない。ただ寄り道しただけだ。

「ブヒッ♪本当にいくの?」

貴方の大切な場所じゃないの〜?」

「ブヒっ?当たり前じゃない。

最強の保育士も、最強のヒーローも、目指すところは一緒よ。

それは大切なご主人様の為なら何でもすること
ブヒヒッ♪

それ以外なんにもないブヒヒッ♪」

初心者マークを付けた黄色いハマーは、彼女の研修先の職場に向かってまた走り出す。

もちろん、窓から道行く人を狙い撃ちながら・・・

—————

私立ソラシド学園の中庭に立つ桜の木。

その下でましろは鼻歌を歌って、上機嫌だった。

「わーっ！きゃあああっ・・・!!」

学園の中は阿鼻叫喚だ。

外周を囲うように、黒いオーラが立ち込めて、生徒たちは閉じ込められている。

「きゃはははっ！ブヒブヒ〜♪
待て待てブヒッ〜！」

玩具の光線銃を片手に牝豚化した生徒が、他の生徒を追いかけて回っていた。

歌うましろを中心に、学園は狩場と化していたのだ。

「ましろさん！もお・・・こんなことやめて・・・!!」

クラスメートのるいや、つむぎが必死にましろに懇願するが、ましろは「ブヒ♪」と豚鳴きで返す。

「どうしてやめるの?」

学園のみんなもご主人様の牝豚になった方が幸せじゃないかな?

ブヒブヒ鳴いて、ザーメンをねだるのがどんなことよりも大事だよね?

ブヒヒッ、ブヒヒッ!ブヒ♪ブヒ♪

「そんな・・・ひっ!」

止まっている彼女達など絶好的に過ぎない。
ビュンビュンと狙い撃ちされて、瞬く間に自分たちも「ブヒブヒ♪」鳴き始めた。

「う〜ん。やっぱり走り込んでる陸上部と野球部は手強いなあ〜。

ブヒヒッ♪かなめ先輩とたまきさん・・・が仲良く粘ってる。

ふふっ♪野球部のユニフォームってお尻が強調されてえ・・・なんかエッチ♪

盛ってきちゃったブヒっ!

私も参戦しようっ♪」

ましろはスキップしながら、自分も玩具の光線銃を振りかざす。

「ハアハア!止まっちゃ駄目!どこかに逃げ道があるはず!」

後輩を励ましながら走るかなめの前にフワリとピンクの豚耳少女が舞い降りた。そして間髪入れずに光線を放つ。かなめは咄嗟に避けて無事だ。

「反射神経は負けないよ！虹が丘さん!!」
身構えるかなめに、ましろは後ろを指差す。

「ブヒヒィ〜ブヒブヒッ!」
酷いです♪先輩〜!!避けたら後ろの私に当たりますって♪ブヒヒィ〜♪」

「なっ・・・」
呆然とするかなめ先輩のこめかみに、ましろは銃を突きつける。
そして躊躇なく引き金を引いた。

倒れるかなめ先輩の前にましろは銃を差し出す。

「先輩の足で、陸上部を仕留めるブヒッ♪
出来たらご褒美あげるブヒィ〜♪」

「ブヒッ!ブヒヒィ〜ンッ!」
かなめは光線銃を受け取ると、来た道を引き返していく。
お尻をフリフリと楽しそうに。

まだ学園内では悲鳴が鳴り止まない。

「ブヒヒッ♪最後の一人まで・・・逃さないんだから♪」

背中のアタッチメントから、二丁の光線銃を引き抜くとましろは次の獲物を物色しはじめた。
そしてほんの1時間後。学園から悲鳴が消える。

その代わりに聞こえてきたのは、元気のいい「ブヒブヒッ!」といった豚鳴きだけだった・・・

—————

「ご主人様♪スカイランドの全域を支配下に治めましたブヒッ!」
逆らうものはもういません。全てはご主人様のものブヒィッ♪」

「ブヒィィッ〜♪ソラシド学園をご主人様のハーレム王宮にすべく改造中です♪
急ピッチで工事が進んでいます。みんなブヒブヒ張り切っちゃってえ♪」

「お姉ちゃんたちのコネで、電波に詳しい人を紹介してもらったブヒヒィ♪
ネットを介してオーラを送れる装置を開発してもらったブヒ♪
これで世界征服も容易く・・・ブヒィ♪ブヒヒィ♪・・・ブヒブヒィッ♪」

「アンダークからの妨害も全てわたしが引き受

けています。

「ご主人様は心置きなく牝豚を犯すのを愉しんでいただければブヒッ♪」

「ゲヒヒッ!えらいね〜、お前たち。
自分の大切なものをこれでもかと踏みじってご主人様に捧げたって訳だ。
実にいい働きだ」

つばさに乗っ取ったままのゲススギルは、気分よさそうにはしゃぐ。
常に裸でいるこの男のイチモツがピンピンと報告のたびに反り上がる。

「憎きコイツも従順なペットに仕立ててから捧げてくれたし。
もう言うことなしだよ。ゲヒヒッ・・・!」

ゲススギルは傍らで愛犬のように座るシャララの頭を撫でてやる。
シャララは「ブヒヒィ♪」と豚鳴きしながら、はにかんだ笑顔を浮かべた。

「そうだ。君たちにご褒美をあげないよね。
世界を俺色に染めてくれる君たちは俺の“ツガイ”にしてあげるよ。
その為にどうすればいいか・・・わかるね?」

ゲススギルは指を打ち鳴らす。
4人は目を輝かせながら、マングリ返して秘部を晒す。

「」「」「」「」「」「」「」「」
「」「」「」「」「」「」「」

牝豚のご褒美は生ハメだ。それを理解している彼女たちはご主人様がハメやすいようにする。そして自分が我先にと選ばれるようにと、無様に争ってみせた。

「ブヒッ！ブヒッ！ブヒッ！」

ヒーローガールの鍛えに鍛えたオマンコで気持ちよくなって欲しいブヒッ

わたしの頑張りはこの時のためであったブヒッ！

「何の取り柄もないわたしだけど、ご主人様を想う気持ちだけは負けないブヒッ！」

ですからあ……わたしのオマンコでオチンポ様をしゃぶらせてくださいっ

一生懸命にご奉仕する様をお愉しみくださいませっ！ブヒッ！ブヒッ！ブヒッ！

「最強のアゲアゲオナホでシコシコしてほしいブヒッ！ご主人様の為ならどんなに激しく使い潰されても大丈夫だからあ」

ううん。もっともって虐めてほしい
ご主人様だったら何されてもいいのおっ！！ブヒッ
「ブヒッ」

「ブヒッ」気品溢れるお姫様マンコを持つのはわたしだけ

フローラルな香りと絶妙な締め……高級で有意義な時間を提供できますっ

ですから……ブヒッ！わ、わたしから……ああんっ、ブヒッ！
ハメてくださいませっ！

仲がよかったはずの4人がお互いをライバル視して争うのは実に滑稽だ。

だがゲスギルはそんなことでは満足しない。

「違う違う。もっともって彩りが必要だ。」

ゲヒヒッ！俺に相應しい牝豚にはな！

「ブヒっ？彩りでしょうか！でしたら……わたしはオナニーで牝汁を……え……」

また指が打ち鳴らされた。パチンっ！という乾いた音と共に、ソラ達の“心が反転”する。

「きゃあああ……！」

「何これ！？……信じられないっ！」

ましろが叫び声をあげ、あげはも顔を真赤にして慌てて足を閉じた。

「ゲスギル……！わたし達を慰みものにして……」

マジエスティは操られていたことに、憤りを隠せない様子だ。

「貴方は……！」

こんな酷いことばかり……許せません

っ……！

ソラは気丈にゲスギルを睨みつける。

「俺だけが責められるのか？」

お前達も散々酷いことしたじゃないか。

ゲヒヒッ！覚えてるんだろ？自分達が何をしたかをっ……！

「っ……！」

心が反転させられてただけで、記憶はある。全ての感情が逆流してくる感じた。

あげはは震えだすし、ましろは顔面蒼白になっている。

彼女たちを横目にソラは奮起した。

「わかってます……だからこそ！」

皆の平和を……わたし達が取り戻します……！それがわたし達の償いです……！」

ソラは大事なスカイランドを陥れ、憧れの人を売り、人間を辞めた牝豚の格好をしている。そのことを全て知った上で、

なおも立ち上がったのだ。

その気高さ。強い心。

ソラが真のヒーローガールとして、プリキュアとして立ち向かおうとしていた。

「そうね。やらねばなしは性に合わないわ」

マジエスティもその目に闘志が宿る。

「……」

その時だった。

ゲススギルは指をそんなソラとマジエスティの前で交差させたのだ。

「ゲヒヒヒッ！残念。」

指を打ち鳴らすだけで、また簡単に反転させられる。

ならなんで戻したかって。そりゃ……こうした方が恨みや怒りが大きくなるからさ！俺への思いがデカくなればなるほど、反転した時に俺への愛は強くなる！」

「なっ……！！」

パチンッ……

（駄目だ！……わたしがしっかり……しな
いと……これ以上みんなを……
え？そうじゃない……？）

え？わたしは誰？……ふあああ！

なんでこんな大事なことを忘れて……

わたしはご主人様の……牝豚……ブヒッ！

「ブヒィッ！失礼しましたブヒッ！」

ご主人様に楯突くような真似をしてえ……恥

ずかしいブヒッ！

すぐに“ツガイ”に戻りますブヒィー！

ソラは悟ったように邪悪に笑うと、またまんぐり返しの姿勢になりゲススギルを誘う。

今度はお尻をフリフリと振って、さらに卑猥だ。下品といってもいい。

「なるほどっ♪さすがご主人様ですブヒッ！」

たしかに思いが強く募った気がしますっ……ふふふっ！すごいブヒィッー！

これ以上ないと思っていた愛情がこんなにも溢れるなんてえ……

ブヒ……ブヒブヒッー！

「あふう♪ふひいい……ブヒブヒッ♪

もお！気分が晴れ晴れ最高ブヒィー！心がウキウキして自然と顔がアへ顔になっちゃ
うブヒ！ブヒヒッ♪」

「もっと！もっと見てブヒッー！ご主人様あ♪

わたしの最強のアゲアゲオナホマン♪お……！奥まで全部視姦してえ♪

ブヒヒィッ！ブヒブヒ！見られるのお気持ちよくてたまないブヒッー！

ましろやあげは、マジエスティもソラと同じようにゲススギルに媚びる。いつの間にか反転させられる前の格好に戻っていた。

それどころか、器用の腰をうねらせてさらに卑猥になっている。

「ゲヒヒヒッー！こうやって何度も何度も重ねがけして……俺への愛を深めてもらうからね。」

取り返しがつかなくなるまで……！

ゲススギルはこれからあらゆる変態行為を4人に覚えさせていく。ケツは舐めるものだし、チンポは崇拜するものだ。

牝豚に相應しいオナホっぷりを堪能させた後にまた反転させるのだ。

ゲススギルは趣味の悪い企みを愉しみながら、ギンギンのイチモツをソラにあてがう。

「憎くて仕方ない俺を、こんな恥ずかしい格好で誘ってセックスを懇願する！

これはきつと……俺をもっともっと許せなくなるだろうなあ……ゲヒャヒャヒャッー！」

世界を巻き込んで地獄は続いていく。

ソラ達がゲススギルと同じ暗黒に染まりきるその時まで。

「ブヒィッー！ご主人様のオチンポお♪やっときてくれたブヒィッー！ぶっといいいっ！ブヒブヒヒッ♪最高お……！！

ブヒッー！ブヒブヒ、ブヒブヒブヒヒッ♪

そして、落ちていくソラ達の豚声がどこまでも甲高く鳴り続けていた……。

おわり

あとがき

2冊目のプロキュア本！読んで頂きありがとうございます！！
楽しんでいただけていたら嬉しいです。
ひろプリメンバーのエロをがっつり描けたのはもちろん、
20周年ということで入れたかったオールスターネタも
なんとか入れられて良かった！

全作品出したかったところですが、流石に難しかった＞＜
今回出せなかったシリーズもいずれ…。
それとして、せっかくのオールスター要素なので
もっと大ゴマでページ取っておけば良かったと
少し後悔も…。と反省ばかりですが、やりたいことは
ある程度できたかなと思っています！！

来年も色々忙しくなりそうですが、
頑張っていきたいと思いますのでまた
次の本もお手に取ってもらえたら嬉しいです！！

では皆様、
今年も最後、良いお年をお迎えください！！

さなつき

奥付け

- 発行・著者 さなつき
- サークル アヘアジフ
- Email neko998-aheaji@yahoo.co.jp
- Pixiv [41042507](https://www.pixiv.net/users/41042507)
- Twitter [@sanatuki0510](https://twitter.com/sanatuki0510)
- 印刷 ねこのしっぽ様
- 発行 2023/12/31 コミックマーケット103

つながるツガイ♥ぶたきゅあBUHI♪：

- 著者 日高久志
- pixiv <http://pixiv.net/users/4853918>
- ノクターン <http://xmypage.syosetu.com/x8371q/>

日高さん
今回も寄稿文本当に
ありがとうございます
ございました



**制作
アヘアジフ**

**この作品は
二次創作であり
原作とは一切関係ありません**

複製・二次創作を禁止する

